

市民意見募集手続の結果について

1 計画等の案の名称 認知症とともに生きるまち・うえだ 希望宣言(案)

2 募集期間 令和7年3月5日(水曜日)から令和7年4月4日(金曜日)まで

3 実施結果

(1) 件数 11件

書面での提出 : 9件 (6人)

聞き取り : 2件 (15人)

・認知症希望大使 春原治子 様、桜井記子 様、神林芳久 様 3人

・本人ミーティングうえだ参加者 12人

(2) 提出方法

持参	電子メール	ファクシミリ	聞き取り	計
2件(2人)	5件(3人)	2件(1人)	2件(15人)	11件(21人)

4 意見に対する市の考え方

No.	意見区分	意見の概要(要旨)	市の考え方
1	宣言文1	住み慣れた地域で、認知症になつても暮らししていく為に、上田市内10の地域支援センター管内の小学校、中学校、高校、短大、4年生大学でサポートー講座を定期開催出来る様、予算付けていただき、継続する事により、共に住みやすい地域に成ると思います。	若い世代から「新しい認知症観」について理解することが重要であると考えています。 学校や地域包括支援センター、キャラバンメイト(認知症サポートー養成講座を実施できる講師)と協力しながら、幅広い世代を対象とした認知症サポートー養成講座を計画的に開催します。
2	宣言文1	基本法の理念で最も大切なのは、認知症の人が暮らしの主体者であること。理解や支援をする対象ではなく、まずは対応な立場である事を国民が当たり前に理解できるよう、基本計画では「新しい認知症観」の普及が最重要課題とされているので、上田市の宣言文だと、今後の上田市の計画や事業の展開で大きなブレーキ(時代に逆行)になつしまう可能性がある。	上田市民を対象としてアンケート結果では、「人に迷惑をかけてしまう」「認知症は怖い」「何もできなくなる」というイメージを約5割の方が持っています。 「認知症の人の理解」という言葉が「理解される存在」という意味にとられ、対等な立場でない印象を与えててしまう可能性もあるため、「認知症の人の可能性の理解」と修正します。

			<p>認知症の人と病について正しく理解することで、認知症であってもなくても、対等な立場である事を意識せずに暮らせるまちを目指します。</p> <p>また、具体的な取組では、「新しい認知症観」の普及を柱に据えた取り組みを進めます。</p>
3	宣言文1	<p>「よりそう」というが当事者はよりそってもらうだけの存在ではなく「支えられる側」と区別されていると感じる。また認知症になってもその人自身は変わらないということを伝えたい。</p> <p>認知症になったからと言って隠すのではなくオープンにして地域と繋がり続けることで自分らしく生き続けることにつながる。地域で繋がり続けることが大切。</p>	<p>「よりそう」から「共に歩む」に修正します。</p> <p>なお、認知症になっても、地域との繋がりが自然と継続される地域を目指し、「新しい認知症観」の普及に取り組みます。</p>
4	宣言文2	「誰もが」は対象が曖昧になってしまうので、「誰もがどんな状態であっても」にするとよいと思う。	「 誰もがどんな状態であっても 」に修正します。
5	宣言文3	<p>予防を「目的」とするのではなく、「基本的人権をもって生きる」ことが「目的」である。備える事は大切であるが、宣言文だと「認知症にならないこと」が備えであると捉えられる可能性がある。すでに認知症になった本人や家族も希望をもてる宣言になるよう「～食に気をつけ、日々、チャレンジしていきます」とすると前向きになるのではないでしょか。</p> <p>JDWG(一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ)の希望宣言でもチャレンジを述べた文章があります。</p>	認知症であってもなくても、市民誰もが認知症の備えをすることの大切さを伝えるため、「 なりうる 」を削除し「～食に気をつけ、誰もが認知症に備えます」に修正します。
6	宣言文4	誰がまちをつくるのかを明確にするためにも、「ともに」を示した方が良い。	「 ともに 」を追加し、「～安心して暮らせるまちを ともにつくります 」に修正します。

7	宣言文全体	認知症の理解や備えるために、実際に市民がどのように行動すればよいのかがわからない。また当事者視点の言葉が不足している。	宣言文は、上田市民全員が目指す姿を示すものであることから、全ての宣言文に当事者も含んでいます。 その実現に向けた市民や行政の取組事項については、今後、広報うえだ等でお知らせします。
8	宣言文全体	現在の社会では、まだまだ古い認知症のイメージで差別的・否定的に捉えられることが多いため、共生が当たり前になって共生社会が死語になる市になれば良いと思う。	御意見と同様に考えています。まずは、「新しい認知症観」の普及から取り組みます。
9	宣言名称について	今の宣言の名称だと、「上田市民のほとんどの方が認知症をかかえていることが宣言策定の背景」と誤解されてしまう可能性があるため、「認知症とともに生きる希望宣言 うえだ」等とするのはどうか。	認知症の方もその関係者も含めた市民全員が、「ともに生きることを「まち・うえだ」に掛けていますので、名称の変更はしなくて良いと考えています。
10	その他	認知症になる前にフレイルを早期に発見し、要介護一歩手前の方をケアする必要性を感じます。 「AI を活用したフレイル予防」を取り組んではほしい。 認知症を未然に防ぐ為にも、実証実験を行うなど取り組んではほしい。	一部の自治体で電力会社が提供する AI によるフレイル予防を導入しております。 県内でも導入した自治体があるため、その状況をお聞きしながら、継続して検討しています。
11	その他	施設スタッフが減っていると聞きます。 施設もどんどん閉鎖され、介護を必要とするご老人の行き場がなくなり、介護している家族も苦労しています。ともに生きるために自治体として先ず出来ることを(施設の充実、働くスタッフへの保障など)進めていくことが希望宣言ではないかと思います。	希望宣言は、全市民が目指す将来像を示すものでありますことから、この宣言文では、施設や介護職については表現しておりません。 なお、人口減少の影響もあり、福祉職も人員確保が課題になっていますので、当市も含め県全体で国に介護報酬の見直しなどを要望しております。 また、市では、在宅でも施設でも、過不足なく介護サービスが提供できる体制も目指し計画的に取り組んでいます。

※類似の意見はまとめて回答しているため、提出件数と一致しない場合があります。